

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

1. 活動のテーマ

自然

園名	板橋区立高島幼稚園
所在地	板橋区高島平2-18-1

<テーマの設定理由>

幼児の姿から、自然に触れて感動したり、自然の変化を感じ取ったりしている姿が見られ、身近な環境への関心が高い様子が見られる。幼児が自分から自然に関わり、様々に発見したり感動したりすると、試したり、工夫したりする探究心が湧いてくる。園内環境や教師の援助を工夫することで、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

年間を通して、幼児が自分から様々なことを見つけて遊ぶ時間を保障する中で活動を行っていく。

3. 探究活動の実績

<対象年齢・活動の時期・内容>

- ・4歳児
- ・令和7年5月14日
- ・自分たちなりに考えを巡らせながら幼虫の観察をする

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

掘ってもいい土があるところ、虫を入れる入れ物、スプーン

<活動の様子>

土を掘ると幼虫がでてくる場所に、幼虫が好きな幼児が数名集まっている。手やスプーンを使って土を掘り返して、幼虫を見つけては入れ物に入れ、土もたくさん入れる。

T(教師):「土も一緒に入れるんですね」

A児:「土の中にいたから」

何匹もつかまえて、入れ物に入れた後、土の中の幼虫が気になって触る様子がある。

A児:「幼虫、まだ生きてる」と嬉しそうに言う。

A児:「幼虫、全員いるかな?」

入れ物から土ごと地面に出して、数人で一緒に幼虫の数を数えて、全員いることが分かったと、また入れ物にもどし、幼虫が土の中に入っていく様子をじっと見ている。

C児:「ご飯、探しているのかな?」

D児:「そうだね」



4. 振り返り

友達との関わりが出てきて、自分が思ったことを言葉で伝えてやりとりを楽しむ様子が見られる。幼虫を何度もつかまえた経験から、幼虫をつかまえた時は幼虫がいた場所の土を一緒に入れ物に入れるとよいことを知っていたり、「まだ生きてる」と気にしたりしている。幼児なりに興味を持って観察することは、自分なりの理解が進むことであり、じっくり見ることで様々な思いを巡らせて見ていることが、幼児の言葉から分かった。また、観察することによって、次の疑問へとつながっていくことも分かった。